

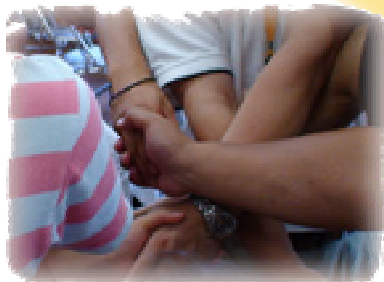
平成19年度

NPO 法人

えひめ子どもチャレンジ支援機構

— 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業報告 —

活動報告書



「かかわり」の潜在力

えひめ子どもチャレンジ支援機構 理事長 村上 伸二

「みんなでチャレンジみんなのチャレンジ」愛称「みなチャレ」も、八幡浜で初回、松山では2回目を無事終えることが出来ました。関係のみなさまに心からお礼申し上げます。

「みなチャレ」を終えた感想文に目を通しながら、嬉しい言葉に出会いました。

「人とのかかわりの大切さが分かった。」「やっぱり人は誰かに助けてもらっているんだなと思った。」「人と人とのかかわり合いというのはすごいなと思った。」そして、とどめは、「いつか（松山に）帰って来て手伝うこと出来れば参加したい。」という言葉です。

見知らぬ者同士の「かかわり」からスタートした活動は、まさに全てが未知の世界との出会いでした。この出会いを可能にしたのは、実は「人」でした。「子チャレ」スタッフだけでなく、外部の協力者の存在があって初めて実現できた活動でした。

子どもたちは、こうした人と人とのネットワークが生み出すパワーを実感したのだらうと思います。こうした実感は、今後の彼らの生き方に大きな力をもたらすのではないのでしょうか。国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのある報告書には、「発達資産」の概念が提唱されています。それによると、人のネットワークは「外的資産」にあたるようです。一方、子どもがネットワークから得たものとしてやる気や協力の自覚などがあり、それらは「内的資産」とされています。「外的資産+内的資産」が発達資産というわけです。だとすると、子チャレの活動は、子どもの発達資産の充実に大きな成果を上げているように思われます。

似たようなものとして苅谷剛彦の「学習資本主義」がありますが、これとも強い関係がありそうです。

こうみてくると、「かかわり」が生み出すパワーは予想外に大きいというのが、今年の活動からの学びといえそうです。

目次

「かかわりの潜在力」	村上 伸二	
八幡浜地区設立総会		2
基調講演	讃岐 幸治	3
自主事業「みんなでチャレンジみんなのチャレンジ」報告		5
八幡浜でチャレンジ		6
松山でチャレンジ		12
総評	19年度松山地区の活動を振り返って 宇都宮正男	19
支援事業1	松山市中学生ジュニアリーダー研修	21
支援事業2	「子どもが元気なまちは、みんなが元気」事業	22
支援事業3	安全マップづくり「伝える」	25
寄稿	「学校教育と子どもチャレンジ支援機構」 讃岐幸治	26
設立趣意書		34